

天文学者大集合！

宇宙・天文を学ぶ大学. 紹介します

第10回「“宇宙（天文）を学べる大学”合同進学説明会」

福江 純

〈大阪教育大学 〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘 4-698-1〉

e-mail: fukue@cc.osaka-kyoiku.ac.jp

渡部 義 弥

〈大阪市立科学館〉

神田 展 行

〈大阪市立大学〉

第10回「“宇宙（天文）を学べる大学”合同進学説明会」を、2017年6月11日（日）に大阪市立科学館で開催した。参加大学数は例年並の20大学であった。一方、高校生ら学生の参加者が約32名、先生や保護者ら一般の参加者が22名であった。例年どおり、個別説明時間（6分）+ポスターセッション方式を採用し、大学側と参加者のクロスセクションを十分に取った。今回は10回目になるので、これまでの総括をしておきたい。ちなみに、この10年間で延べ400名以上の高校生らが参加した。

1 はじめに

2008年から始まった、天文に特化した大学合同説明会もついに10年目を迎えた¹⁾⁻⁶⁾。参加大学はここ数年は20大学前後、参加高校生は30-50人程度である。昨年第9回の報告は休ませてもらったが、今年は節目の第10回ということもあり、簡単に報告するとともに、10年間のまとめをしておきたい。以下、2章で今年の報告を、3章で10年間のまとめを、4章で今後へ向けての考えを述べたい。

2. 参加者・大学・会場のWIN³で

まず事前の準備や当日の状況について、簡単にまとめておきたい。

■事前準備など

数年前から徹底的な省力化（手抜き）を図っている。当日には、ポスターボード設営や受付設営など人手が必要だが、事前準備は、福江（連絡など）と渡部（会場）の二人で行っている。科学館のスケジュールに載せるために年始めからの相談はするが、メールのやり取りは数回ぐらいいだ。また負担を減らすため、依頼文や報告書が面倒な一方、特にメリットが感じられなかった後援依頼

も、ここ数年は行っていない。この数年は、後始末がたいへんなアンケートもやめている。

■参加大学

愛媛大学、大阪教育大学、大阪市立大学、大阪大学、大阪電気通信大学、大阪府立大学、鹿児島大学、関西学院大学、京都産業大学、京都大学、近畿大学、工学院大学、甲南大学、徳島大学、奈良教育大学、奈良女子大学、兵庫県立大学、放送大学、山口大学、立命館大学の20大学が参加した。今回は休まれたところや、逆に新しく天文のスタッフが増えたところもあって、参加大学数は例年程度となった。

■広報関係

今年は世話人の一人(福江)が講座主任などで忙しく、広報を十分に手厚くできなかった。そのためもあるのか、後述するように、参加者数が減少した。当初より問題であった広報については今後の課題である。

■配布物

受付での基本配布物は、A4判両面に印刷した、参加者リストと研究対象・手法マップである(図1, 図2)。大学のノベルティも用意した。

■形式

従来と同じスケジュールで、大学紹介タイムパート1/ランチ&ポスターセッション パート1/大学紹介タイム パート2/休憩&ポスターセッション パート2/天文講演会(企画)である。参加大学が多いため個別説明時間は6分と短い。ポスターセッションでの参加者と大学側のクロスセクションを十分に取るようにした。

■当日出だしは遅め

何年もやっているのと、科学館が開館する9時半から正規の受付開始である10時までの出足で、ある程度は読めるようになってきて、今年は例年の半分程度かなあ…。受付記帳から、最終的な内訳として、高校生ら学生の参加者が32名(小学生5, 中学生7, 高校生15, 大学生5)、先生や保護者ら一般の参加者が二十数名あり、やはり例年

第10回「宇宙(天文)を学べる大学」合同進学説明会
天文学者大集合！ 宇宙・天文を学ぶ大学。紹介しましよ
 2017年6月1日(日) 大阪市立科学館 1階研修室

主催 宇宙(天文)を学べる大学合同進学説明会実行委員会・大阪市立科学館
 全般的な内容は付録、大阪教育大学 福江 純
 [fukui@cc.osaka-kyoiku.ac.jp] まで、お気軽にどうぞ。

プログラム(午前)	プログラム(午後)	全般的な内容は付録、
10:00 受付開始	13:00 各大学紹介パート2	大阪教育大学 福江 純
10:30 挨拶と	14:00 特別講演会	[fukui@cc.osaka-kyoiku.ac.jp]
10:40 各大学紹介パート1	15:00 天文講演会「地球外生命発見の一番乗りは誰だ！」	まで、お気軽にどうぞ。
11:40 ランチ&ポスター	16:00 終了予定	

大学名(所在地)	当日スタッフ(連絡先)	近畿大学理工学部(大宮町東大宮)	井上朋輝 [kenpei@phy.kinki.ac.jp]
愛媛大学理学部(愛媛県松山市)	近藤光志 kondo@cosmos.ehime-u.ac.jp	工学院大学先進工学部(東京都新宿区/八王子市)	其瀬昌之 moto@cc.kogakui.ac.jp
大阪教育大学教育学部(大阪府吹田市)	福江 純 fukui@cc.osaka-kyoiku.ac.jp	甲南大学理工学部(兵庫県神戸市)	高木 肇 tomaga@cc.konan-u.ac.jp
大阪市立大学理学部(大阪府大阪市)	石塚秀樹 ishizuka@sci.osaka-u.ac.jp	神戸大学理学部(兵庫県神戸市)	上野宗孝 ueno@psu.org
大阪大学理学部(大阪府豊中市)	松尾太郎 matsumoto@atmos.sci.osaka-u.ac.jp	徳島大学理学部(徳島県徳島市)	伏見 真 ikumi@sci.kochi-u.ac.jp
大阪電気通信大学工学部(大阪府豊川市)	多摩謙一郎 tamaki@cc.itc.ac.jp	奈良教育大学教育学部(奈良県奈良市)	信江正雄 nobukawa@nara-edu.ac.jp
大阪府立大学生命環境科学域自然科学部(大阪府堺市)	村岡和志 murakami@cc.osaka-fu-u.ac.jp	奈良女子大学理学部(奈良県奈良市)	山内茂雄 yamauchi@cc.nara-wu.ac.jp
徳島大学理学部(徳島県徳島市)	平田純志 hirata@cc.kagoshima-u.ac.jp	兵庫県立大学天文科学センター(兵庫県尼崎市)	宇野洋一 ueno@tao.ac.jp
関西学院大学理工学部(兵庫県三田市)	平賀純子 hiraga@wasei.ac.jp	放送大学教育学部(千葉県千葉市)	谷口竜明 yanaguchi@ouj.ac.jp
京都産業大学理学部(京都府京都市)	深木 真 fukaki@cc.kyoto-su.ac.jp	山口大学理学部(山口県山口市)	坂本伸之 sakenobu@yamaguchi-u.ac.jp
京都大学理学部(京都府京都市)	野上大作 nozumi@waaan.kyoto-u.ac.jp	立命館大学理工学部(滋賀県草津市)	森 正樹 mori@it.rmutem.ac.jp

図1 受付での配布物(表)。タイトル・日時に加え、簡単なプログラムと参加大学リスト(および連絡先)がまとめてある。

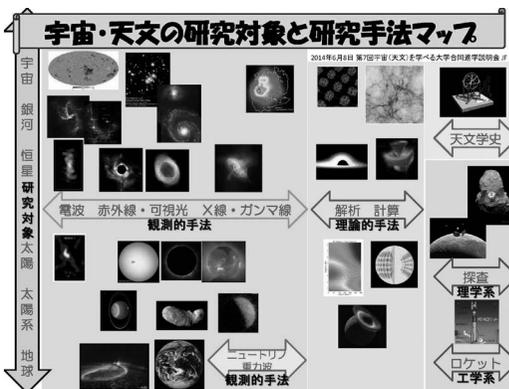


図2 受付での配布物(裏)。研究対象(縦軸)と研究手法(横軸)を表す研究マップ。

の半分程度だった。

本来の定員が80名の科学館研修室は、ほどほどに埋まった感で(図3)、2回のポスターセッションではそこかしこで熱が入った大学説明が行われていた(図4)。一応、今回も、参加者にとってはもちろん、参加大学も会場側も、全員がWIN³の開催となったようである。

最後は例年どおり天文講演会パートである。この1年、プロクシマケンタウリbやトラピスト1など、ハビタブル系外惑星の発見が相次いだことを受けて、今回の天文講演会は「地球外生命発見の一番乗りは誰だ!」と称したパネルディスカッション形式にした(図5)。まず急遽出張が



図3 大学紹介パート1の会場風景。参加者はみな熱心に大学紹介を聴いている。



図5 天文講演会（パネルディスカッション）「地球外生命発見の一番乗りは誰だ！」。

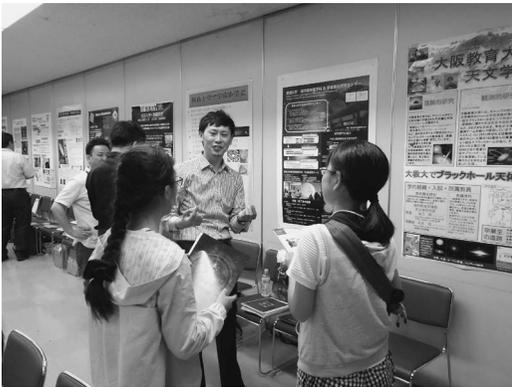


図4 ポスターセッションパート1の様子（研修室内）。ここは大学側も参加者側も熱が入る。

入ってしまった松尾さん（阪大）の原稿をもとに芝井さん（阪大）が基調講演を行い、半田さん（鹿児島大）・伊藤さん（兵庫県立大）・武藤さん（工学院大）がコメントをして、いろいろなディスカッションを行った。

3. この10年間の推移と今後

この10年間の参加大学数と参加者数（全体と生徒のみ）の推移を図6に示す。参加大学数は初回の14大学から微増して、おおむね20弱ぐらいを推移している。一方、参加者数は初回（全体53名、生徒ら37名）から、2009年（全体30名、生徒ら22名）と2012年（全体30名、生徒ら26

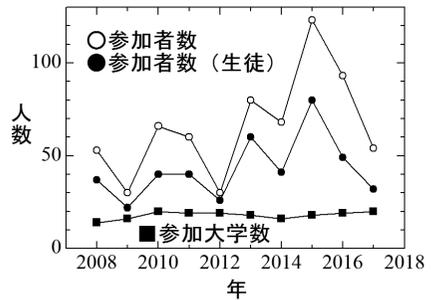


図6 参加大学数（■）と参加者数（全体○，生徒ら●）の年次推移。

名）から2015年（全体123名、生徒ら80名）まで、大きく変動している。この1,2年は十分な広報を行えていないための減少だと思われるが、過去の変動は必ずしも広報だけが原因ではないと考えられる。

一応の平均値としては、参加大学の平均数17.9、参加者数の平均が全体65.7名、生徒ら42.7名となる。

参加者が減少した2回目の報告²⁾で述べたように、スタッフ数より参加者数が少ないイベントは失敗である。スタッフ数は参加大学数+数名なので、2回目（2009年）以外はおおむねクリアしている。もちろん、何度も触れたように、進学説明会は量より質なので、必ずしもコストパフォーマンスだけを追究するものではないが、参加者数が

少ないとやはり張り合いがなくなる面は否めない。一方で、なぜが激増した2015年は安全面なども心配された。平均値に近い当たり、参加大学が20弱なら、生徒らが40-50名ぐらいが適正規模だと考えられる。

ところでこの10年間の間に、参加した大学の物理学科などに、この進学説明会を聞きましたという新生がちらほら現れるようになった。うれしいことである。進学説明会などはもともと“打率”の高いものではないから、このような例が各大学に10年で数名もいれば成功とってよいだろう。

今後の課題としては、何度か触れた広報の問題がある。大学入試課からの高校向け配布物に、合同進学説明会のポスターを同梱させてもらうなど、より一層の工夫が必要かと思う。

今回も、参加大学の上手なプレゼンに感謝したい。また、大阪教育大学および大阪市立大学の学生には、当日の手伝いをしてもらっている点、御礼申し上げる。なお、10年を節目として、大学側の世話人は福江（大阪教育大学）から神田（大阪市立大学）へバトンタッチすることにした。会場側の世話人は引き続き渡部（大阪市立科学館）が担当する予定である。今後もしろいろなご意見やご協力を賜りたい。

参考文献

- 1) 福江純ほか, 2009, 天文月報102, 48
- 2) 福江純ほか, 2010, 天文月報103, 67
- 3) 福江純ほか, 2010, 天文月報103, 701
- 4) 福江純ほか, 2011, 天文月報104, 662
- 5) 福江純ほか, 2013, 天文月報106, 685
- 6) 福江純ほか, 2015, 天文月報108, 842

Gathering Astronomers! 10th Joint Orientation for Entrance Examinations and Research Theme of Astronomical/Astrophysical Institutes in Universities

**Jun FUKUE, Yoshiya WATANABE and
Nobuyuki KANDA**

*Astronomical Institute, Osaka Kyoiku University,
4-698-1 Asahigaoka, Kashiwara, Osaka 582-
8582, Japan*

Abstract: Since 2008, we hold the joint orientation for entrance examinations and research theme of astronomical/astrophysical institutes in various universities in Japan. On June 11 in 2017, we held the 10th joint orientation at Osaka Science Museum. The number of participating universities is 20, while the number of participants is about 32 (students) and about 22 (others). The special program in this meeting is "The first one to find an extraterrestrial life is WHO!".